

## ○処方適正化アプローチ事業

福岡県内での指針の活用実績を得るため、協力医療機関を選定し、東大病院で実施している「薬剤師による持参薬評価テンプレートを用いたスクリーニング」を導入して、処方適正化アプローチを実施する。

### 【令和元年度】

平成30年度の医療機関は一般病院であったことから、令和元年度は入院期間が長い医療機関で取組を実施する。【データ集計中】

## ○お薬手帳の活用促進事業

服薬情報の一元化を図り、お薬手帳の正しい活用を促進するため、75歳以上の重複服薬者に対して、リーフレット及びお薬手帳ホルダーを送付し、その効果を解析する。

### 【令和元年度】

抽出条件該当者の増減や送付対象者のお薬手帳の持参状況を確認し、その結果を踏まえ、抽出条件や抽出期間を検討して、新たな対象者に送付を行う。【R1.12 送付済】

## ○研修会の開催 【R1.9.6実施済】

指針の普及・浸透を図るため、医師、薬剤師、看護師等の多職種を対象に、処方適正化アプローチの取組事例等の講演を実施する。

- ・処方適正化アプローチの取組事例
- ・国や県の動向、取組
- ・ポリファーマシー対策のための指針
- ・高齢者への適切な薬物療法

## ○患者啓発事業

医薬品の適正使用には患者とその家族の理解と協力、医療関係者からの丁寧な説明と情報提供が必要不可欠であるため、ポリファーマシーに関する啓発を行う。

### ●お薬手帳及びポリファーマシーに関する啓発事業

・薬剤師が、来局した65歳以上の男女に対し、服薬指導時等にお薬手帳及びポリファーマシーに関する質問をし、それに基づいた啓発活動を行う。(10月17日～23日)【実施済】

### ●啓発用チラシ・啓発用シール 【案作成】

- ・一定数以上の医薬品を処方されている65歳以上の患者の来局時に、啓発用チラシを用いてポリファーマシーについて説明する。
- ・あわせてお薬手帳に、啓発用シールを貼付してもらうことで、一時的な意識付けではなく、アイキャッチ効果により、お薬手帳を使用するたびに意識づける。

# 福岡県における今後の取組み(案)

	令和元年度(2019年度)				令和2年度(2020年度)			
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
協議会		● 第1回		● 第2回		● 第1回		● 第2回
処方適正化アプローチ実施事業		準備・実施・解析						
お薬手帳活用促進事業		対象者選定	● 配布	解析		対象者選定	● 配布	解析
研修会		● 第1回				● 第1回		
啓発事業			● 啓発	● 作成・配布			● 啓発	